

脱社畜のススめ ストーリー編



おうき 著

「21歳まで1ミリも楽しくない人生を歩んでいた
サラリーマンが月収100万円を稼ぎ
気づいたら会社を辞めていた」

小学生の時に父親が倒れ極貧生活に、
就職した会社は1日14時間労働のブラック企業

そんな僕が株式会社の
社長になるまでの物語



はじめに

はじめまして！おうきと申します。

現在は株式会社の代表取締役として、
インターネットビジネスを中心にした
事業を展開しています。

こちらの電子書籍では、
僕が幼少期から
どんな人生を過ごしてきたのか。

手取り17万円のサラリーマンから
副業でどのように月収100万円を達成したのか。

**『脱社畜』までの過程を
ストーリー形式で詳しくお話しています。**

僕は21歳の時にネットビジネスを始め、
23歳の時に独立。

現在は27歳で、
会社に縛られず、

パソコン一台で仕事をして
自由に生きています。

好きな時に好きな場所で好きなことができる。

まさに夢のような
ライフスタイルを手に入れました。

今はさらに事業を拡大し、
年商10億規模の会社を目指して、
多くのビジネスを手がけています。

- ・メディア運営業
- ・システム開発業
- ・販売代理業
- ・広告代理業
- ・資産運用業
- ・コンサルティング業

などなど。

こう言うと多くのビジネスを展開する
やり手の起業家のような
イメージを持たれるかもしれませんが、

実はこれらのビジネスは
パソコン一台あれば
すべて完結できるものです。

従業員もオフィスも不要。

さらに、ネット上に
複数の仕組みを構築したことで、
今はほとんどの事業から、
収益がほぼ自動で発生する状態になっています。

**つまり、パソコンに1秒も触れなくても
毎月数百万という利益を出せている、
というわけです。**

今はもはやお金のために
働くというステージからは
完全に開放されたので、
本当に自由な人生を謳歌できています。

・・・ただ、
ほんの5年前までは

お金も、自信もない。

人生が1ミリも楽しくない。

本当にダメダメな人生を送っていました。

家が超貧乏で幼少期の頃から
自分の好きなおもちゃやゲームは
一切買ってもらえませんでした。

友達と遊園地や映画に行くことも許されないので、
いつも寂しい想いをしていました。

しかも、中学、高校と
成績は下から数えたほうが早いくらいで、
高卒で就職してからも
ブラック企業に入社してしまい、
毎日深夜0時まで上司から説教される。

しかも給料はたったの17万円・・・

信頼できる友人も彼女もいない。

全く希望を持ってない人生を送っていました。

**そんな僕を絶望のふちから救ってくれたのが
インターネットビジネスでした。**

幸い、僕は当時たった1人で1億円以上稼ぐ
「師匠」からビジネスの本質を
徹底的に学ぶことができました。

僕は師匠に教えてもらったことを一言一句
すべて忠実に実践して行った結果、
会社やムカつく上司に頼らなくても

「自分一人で稼いでいける力」

を身につけました。

「自分一人で稼ぐ力」を身に着けたことで、
僕の何一つ上手く行かなかった人生は、
希望に満ち溢れたものに180度変わったのです。

一番変わったのは、

思考や、人生に対する価値観です。

僕は自分で稼ぐ力を手にするまでは、
たとえ嫌なことや、
理不尽なことが起こっても
受け入れなければならないものと思っていました。

例えば、自分は何もミスしてないのに、
上司の機嫌が悪いから腹いせに怒鳴られる。

休日なのに無理やり出勤させられる。

今思えば理不尽でしかありません。

でも、当時の僕は、

「あー。これもしようがないのかな」

「自分みたいな貧乏で学歴もなければ
仕事もできない、
人より劣ったでそこないの人間は
こんな理不尽な仕打ちも
受け入れないと行けないんだ」

当時の僕は本気でそう考えていました。

サラリーマンである以上、
嫌なことや理不尽なことに耐えることでお金を稼ぐ。

それが当たり前なんだと
自分に言い聞かせていました。

自分の感情を完全に殺していました。

ビジネスを始める前まで、
僕は完全に受け身の人生を送っていました。

自分の人生にも関わらず、
その主導権を自分以外の会社や
上司に委ねてしまっていたのです。

しかし、そんな僕が
ネットビジネスに出会って
思考が180度変わりました。

ある日僕は

「ネットビジネスでたった1人で
月収100万円以上稼いでる」

という青年のブログにたどり着きました。

そこにはパソコン一台で
月収100万円以上を稼ぎ、
自由を謳歌している若者の姿がありました。

彼は言いました。

「満員電車なんてクソだ」

「会議とか打ち合わせとか不毛でしかない」

「情報社会でITやAIが今後どんどん伸びてく中で、
サラリーマンという生き方がもはや終わってる」

「完全に時代の流れは変わった」

「これからは「個人の時代」だから、
自分がやりたいことを我慢して、
嫌々働く必要なんてないんだ」

と。

彼の言葉を聞き、
僕は心臓が高鳴り、
鼓動が早まるのを感じました。

彼は僕が深層心理で思っていたけど
言うてはいけないと
無意識に心に封印していたことを
すべて代弁してくれました。

「あーもっと素直に生きていいんだ・・・」

僕は彼のおかげで、そして
ネットビジネスに出会ったおかげで、
忘れていた素直な気持ちを取り戻せたのです。

もちろん、だからと言って、
いきなり今のように
稼げるようになったわけではありません。

最初は正しい知識もなければ
マインドもダメダメだったので、

全然上手く行きませんでした。

巷には

「ド素人でも」 「無知でも」
「完全思考停止でも」
「たった1クリックで稼げる」

みたいな

広告が溢れてますが、
普通に考えてそんなことはありませんよね。

確かに、ネットビジネスは
普通のビジネスに比べたらリスクはないし、
はるかに稼ぎやすいのは間違いありませんが、

それでも最低限の知識と、
学んだことを実行に移すための
行動力は必要です。

しかし、その最低限の知識と
行動力さえなかった僕は、
最初は全くと言っていいほど
結果が出せませんでした。

ただ、僕が言いたいのは、
そんなどうしようもないダメ人間でも、
正しい努力をすれば
確実に変われるということです。

僕はネットビジネスを始めて1年間は
ほとんど稼げませんでした、

その後、運良く先程話した
たった一人で1億円以上稼ぐ
「師匠」に出会ったことで、

**それから約半年で
月収100万円を稼げるようになりました。**

（ちなみに師匠は今では
資産10億円以上持ってる
バケモノになってます。苦笑）

この業界を見渡すと、
どんなビジネスにも応用できる
正しい基礎基本を教えてくれる人はなかなかおらず、
ぶっちゃけ「正しい知識」に出会うことさえ

非常に難しい状況です。

しかし、僕は運良く年収1億稼ぐ師匠から

「お金の本質」そして

「ビジネスの本質」を学ぶことができました。

さらには、

自分のマインドを自在にコントロールし、

「行動させるスキル」も学びました。

特に後者はビジネスだけでなく、

僕の私生活にも恐ろしいほどの影響を与えました。

もともと根暗で

友達が一人もいない奴だったのが、今では

「人生何が起こっても絶対なんとかなる！」

と本気で思ってます。

性格も明るくポジティブに変わりました。

(学生時代など、

当時の僕を知る人にたまに会うと、
マジで「別人みたいだ！」と驚かれますw)

正しい知識を学び、
自分を少しずつ行動させられるように
脳のプログラムを書き換えたことで、

僕は自分に自信を持てるようになり、
ビジネスでも少しずつ
収益が上がるようになりました。

10万、20万、50万、100万・・・

どんどん報酬は増えて行きました。

僕は正しい行動をすれば、
どんなに絶望的な状況からでも
人生は変えることができると知ったのです。

今度は僕がネットビジネスの可能性を
多くの人に伝え、
自分の心に素直に生きられる人を増やしたい。

人生の主導権を取り戻す術を伝えたいと思い、

情報発信しています。

「サラリーマンは安定」という神話の崩壊

そもそも僕は、
会社に依存することはリスクしか無く、
本当に怖いことだなと思っています。

なんであんなリスクしかない場所にいたのが、
社会の洗脳というのは
本当に恐ろしいです。苦笑

だってですよ、
会社が30年以内に潰れる確率は
99.975%です。

1%も30年以上続く会社はありません。

「絶対安定」という神話があった
某家電メーカーでさえ、今はあんな感じ。

ちょっと前に社員が大量に
リストラされましたよね。

業績が芳しくなければ

「いない社員」は普通に切られます。

「大手に入れば安定」

というのはもはや過去の話。

せっかく大手に入ったとしても、
今はもはや潰れる可能性の方が大きいし、
サラリーマンはいつでも
リストラされるリスクがつきまといます。

**会社に所属している限り、
「安定」は絶対に得られません。**

しかも、会社に所属するということは、
「その会社で必要なスキル」
しか身につけられません

その会社で培ったものは、
違う会社で活かさないのです。

考えてみてください。

もし、40代になった時に
リストラにあったら、
働き口ってあるんでしょうか？

・・・そんなことになってしまったと考えると、
ゾッとしますよね。

20年間一生懸命働いてきた会社に、
一瞬で捨てられる訳ですよ。

裏切られる訳ですよ。

そんなことされたら、
僕だったら絶対に
会社を憎んでしまうと思います。

でも、会社に勤めてる限り、
そのリスクは常にあるし
もしリストラされても誰のせいにもできない。

その会社を選んだのは

自分だから受け入れるしかない。

それって超悔しいですね。

また、急に病気や怪我で
仕事ができなくなる可能性だってあるわけです。

僕の父親は元々一部上場企業に勤めていましたが、
僕が10歳の時に

**「脳梗塞」という病気にかかり、
ある日突然「障害者」になってしまいました。**

結果、僕の家族は
一瞬にして貧乏になりました。

生活は苦しくなり、それだけでなく、
以前は付き合いのあった
多くの人が僕たちのもとから離れていきました。

貧乏のおかげで僕は友達を失い、
そのコンプレックスから逃れようとして
性格はひん曲がり、

果てには不条理ないじめに合い、
嫌な思いをたくさんしました。

だからこそ、
僕は「お金がなくても幸せ」
なんていう綺麗事は
口が避けても言えません。

お金は超大事だと断言します。

お金がない人生ほど、むなしく、
つまらない人生はない。

僕の父親のようになる
リスクは誰にでもあるし、
そうなった時に果たして
今と変わらず笑って暮らせるだろうか？

これを読んでもあなたは
ぜひ考えてほしいと思います。

サラリーマンでうつ病になる人が急増

僕が入ったのはリフォームの訪問販売の会社で
社員には毎月の契約ノルマが決まっていて、
それを下回ると問答無用で詰められるという、
「ザ体育会系」の会社でした。

僕はちっとも契約を決めることができず、
毎晩のように上司から
夜遅くまで指導を受けていました。

指導とは名ばかりで、
その8割はただの悪口で、
時には人権を否定され、
精神的に非常に苦しかったです。

あまりに仕事ができなかったので、
上司だけでなく、
先輩や同僚からも
冷ややかな目で見られており、
会社に僕の居場所はありませんでした。

僕の精神は次第に蝕まれていき、
一時期本気で
自殺を考えるほど追い込まれました。

今思うと、
うつ病寸前だったのだと思います。

ただ、運が良かったのは、僕の場合は

「このままじゃマジで死ぬ。
なんとかしないと・・・」

と思っていたところに、
ネットビジネスという
超希望あふれる世界に出会えたこと。

おかげでなんとか思いとどまりました。

希望が感じられなくなった時に人は
一切のモチベーションを失い、
廃人になります。

最悪の場合自ら命を絶ちます。

だから人生において希望は本当に重要です。

しかし、昨今では僕と同じように、

容赦なく降りかかるプレッシャーや、
社内の人間関係によるストレスなどで、
精神病に侵される人がめちゃくちゃ増えてます。

僕の知り合いには、
会社に入り「うつ病」になってしまった、
という方が何人もいます。

会社のお局様が原因で・・・
営業先のトラブルが原因で・・・
上司に会社の不正を強要されたのが原因で・・・

ちなみに、僕自身は
課せられたノルマを全く達成できないような
本当にダメダメ社員だったのですが苦笑、

うつ病になってしまう方は、
必ずしも能力が低い訳じゃありません。

むしろ、成功者とうつ病患者は
紙一重と言われているくらいです。

本人のせいとかは全く関係なく、
職場環境のせいで

うつ病になる可能性だってあります。

僕の知ってる人に実際にいたんですが、
その方は食品会社で働いていたんですが、
上司に会社の不正を強要されたそうです。

もし、自分が同じく食品関係の仕事をしていて
危険な不正を強要されたら・・・。

会社以外に収入源がなければ、
僕だったらめっちゃめっちゃ悩むと思います。

もしかしたら
本当に不正に手を貸してしまうかもしれません。

で、そのせいで被害を被った人の話を後で聞いて、
自責の念に耐えかねて、
最悪自殺してしまうかもしれません。

実際の話なので、
サラリーマンをしてる以上、
誰でも起こりうる話です。

そういう意味でも、昔の僕のように、

自分の本音を心の奥底に封印して、
事なかれ主義で会社に依存するのは
本当に危険なことです。

冷静に考えて、

生きるか死ぬか

**自分の人生の主導権を
会社に握られてるってヤバいです。**

サラリーマンが生きていくためには、
会社の言うことには
すべて従う必要があります。

じゃあ、今言ったように
会社から無理難題を突きつけられたら？

「明日から君はもういない」って言われたら？

「自分で稼ぐ力」がなければ、
会社やパートナーに
収入を依存せざるを得ません。

上手く行ってるうちは
それでもいいかもしれません。

でも、経済は常に動いてるし、
いつまでも今と同じ経営状態が続く保障は
どこにもありません。

パートナーだって人間である以上
いつ心変わりするかわかりません。

他人に自分の人生を左右される状況にいては、
真の自由で幸せな人生を手に入れることは
絶対にできません。

これが僕が20数年間で得た、
この人生における教訓です。

**だから、絶対に他人に
自分の人生を預けてはいけないのです。**

自分一人でもちゃんと生きていける
「力」を手に入れないといけないのです。

逆に、自分の人生の

主導権を取り戻すことができれば、
この人生は最高に楽しくなります。

誰から指図されることもありません。

付き合う人間も自由です。

好きな人と、好きな場所で、好きなことを、
好きなだけやることができます。

昼過ぎまで寝ていてもいいし、
気が向いたら
ふらっと旅行に行くのもいいし、
趣味に没頭してもいい。

何もかも自由。

そんな最高の人生が、

「会社や組織に依存しなくても
自分一人で稼げる力を身につけること」

で実現できるのです。

「自分で稼ぐ力」を身につけるには
自分でビジネスを始めるしかありません。

もちろんいきなり
会社を辞めて起業する必要はなく
最初は副業からはじめれば大丈夫です。

本業の収入を超えた時点で独立しましょう。

パソコン一台で自由を実現する人はどんどん増えている

これまで「パソコン一台で自由を謳歌する人」と
数えきれないくらい知り合ったし、
僕の影響でネットビジネスを始めて
自由な人生を手にした人も何人もいます。

インターネットが普及する前は
ありえなかったライフスタイルだから、
なかなか理解されない部分もありますが、

今後インターネットで
個人が稼ぐという行為は

どんどん一般的になっていきます。

これはもう確定事項です。

昔と違い、
ブログやYouTube、SNS等、
個人が影響力を持つ手段はいくらでもあります。

そんなインターネットのインフラを使えば、
ほぼゼロに近いコストで起業できます。

「自分の好きなことをしながら生きていける」

これはもう何も夢物語じゃないんです。

ちゃんと正しいビジネスの構築法を学び、
実践すれば誰でもできることです。

20代で、人類の理想形とも
言える人生を送れるようになったのは、
正直ラッキーだったと思ってます。

（欲を言えば10代のうちに
この世界のことを知りたかったですけどね。

そうすれば今頃は億万長者だったでしょうから笑)

ただ、自分一人で
自由を謳歌してても楽しくありません。

もっと他にも自由に生きられる人が増えて、
ビジネスや人生について
語り合える仲間が増えたら、
世の中はもっと面白くなるはずです。

起業家を目指す有望な若者が増えて、
どんどん新しい産業が生まれてくれば、
世の中はもっと便利になって、
日本はかつての輝きを取り戻すでしょう。

なので、僕と関わる人には一人残らず

『真の自由なライフスタイル』

を手に入れて欲しいです。

そうしたライフスタイルを
手に入れるための
具体的な方法論や考え方は、もう一冊の著書、

『脱社畜のススメ～真の自由なライフスタイルを達成するために知っておくべき3つの真実～』

に書いたので、ぜひ読んでみてください。

本書では貧乏コンプレックスに犯され
夢も希望もない人生を歩んでいた僕が、
ネットビジネスに出会い変わっていく過程を
赤裸々に本音で書いてます。

別に僕みたいな生き方が
絶対だと思ふ必要はないです。

ただ、

「何にも依存せずに
自分の力で自由に行きっていく」

そんな生き方もあるんだと
知ってただけるだけでも、
十分この本を書いた価値はあります。

おうき

目次

はじめに

「サラリーマンは安定」という神話の崩壊
サラリーマンでうつ病になる人が急増している
パソコン一台で自由を実現する人はどんどん増えている

- 1：裕福な生活が一転。10歳の少年が見た悪夢
- 2：中学時代。貧乏だと本当にろくなことがないと痛感したある事件
- 3：時給800円とかマジ神！バイトに明け暮れた高校時代
- 4：仕事が全くできない・・・ブラック企業でうつ病寸前に
- 5：絶望の果てに見えた希望の光「脱サラして月収100万円？マジ？」
- 6：全く稼げない日々
- 7：年収1億稼ぐ師匠との出会い
- 8：ついに月収100万円達成し脱社畜へ

終わりに

1：裕福な生活が一転。10歳の少年が見た悪夢



僕が子供の頃、父親は一流企業に勤めてたので、普通のサラリーマンの2倍以上の給料をもらっていました。

毎年夏と冬2回は家族で海外旅行に行き、誕生日はこれが欲しいと言えば何でも買ってもらえた記憶があります。

この時は人生の全盛期を迎えてましたね。笑

この頃は性格も積極的で、
近所の子供を集めて
毎日のように朝から晩まで
遊びまくってました。

今思うと、この頃は毎日が楽しくて、
本当に何不自由なく育ったなーって感じです。

しかし、そんなおうき家を悲劇が襲います。

「おうき君、至急職員室に来てください」

その日、いつもどおり
学校の校庭で元気に遊んでいた僕は、
校内放送で突然呼び出されました。

どうせたいしたことじゃないだろう
と思っていた僕に、
担任の先生が
衝撃的な言葉を掛けてきました。

**「お父さんが倒れたそうだ。
今すぐ先生と病院に行こう」**

僕が病院に着いた時には、
父親はすでに「働けない身体」になっていました。

こうして、僕の楽しい毎日は
突然終わりを告げました。
父親が働けなくなったこの日から
僕の「貧乏生活」がスタートします。

女手ひとつで僕と、
5歳年上の姉を育てないといけなくなった母親は
僕らに徹底した節約を強制しました。

お金の無駄遣いは一切禁止。

オモチャやゲームはもちろん、
お菓子すら買ってもらえなくなりました。

今思えば母親も僕らを食べさせて、
学校まで出させるのに
必死だったんだと思います。

ですが、当時10歳の僕にとって、
欲しいものが一切手に入らないのは、
かなり辛かったです。

何よりキツかったのが、貧乏になったことで
友達にとって普通なことが、
僕だけできなくなってしまったこと。

友達が遊園地やキャンプに行く時に、
自分だけ参加できなかったり、
流行りのゲームの話で盛り上がってるのに、
自分はゲームを買ってもらえないから
その話に入れない。

彼らがゲームをして
楽しそうにしているのを見ると、
すごく惨めな気持ちになりました。

しかし、子供ながらに、
惨めな気持ちを感じている自分を
誰にも見せたくない！
というプライドもありました。

だから、皆の前ではあくまで

「俺はゲームとか興味ないんだよね」

って強がっていたし、

遊園地に誘われたときも

「あーごめんその日は予定があって・・・」

とテキトーな理由をつけて
断るようになっていました。

自分の本心を偽り、
上辺で人付き合いをする癖は、
この時に身につきました。

今は当時の友達とは全然会っていません。

あの頃もっと素直だったら、
今も関係は続いていたかもしれない。

そう思うと若干の後悔がなくありません。

起業して僕の人生は大きく変わったし、

自信もついたけど、

もしも今のありのままの自分を出すことに
全く抵抗を感じない素直な自分のまま
当時に戻れたら、

たった一度しかない青春時代を
めっちゃくちゃ楽しく
過ごせたんだだろうなーと思います。

ビジネスを通じて人間心理も
エグいくらい学んでるから、
仲良くなりたい人とは
全員仲良くなれただろうし、
クラスの人気者にだってなれたかもしれない。

女子もバンバン口説けた自信がある。笑

ビジネスは突き詰めると
「コミュニケーション」なので、
僕は普段から

「どういうワードを使えば、

このサイトを見た人は喜ぶか、
やる気になるか、
行動しようと思うか」

そんなことばかり考えています。

すると、最終的に
行動経済学や心理学、
脳科学に行き着きます。

これらの分野を研究すれば、
どうすればストレスなく
相手と関係を構築できるかがわかるわけです。

なので、もしできるなら
今の知識とマインドを持って当時に戻って、
学生ライフを存分に楽しみたいですね。

話を戻します。

僕はとにかく人から

「こいつは貧乏で欲しいものも

買ってもらえなくて残念なやつだなー」

と思われるのが超嫌でした。

プライドの塊でしたね。

だから、

「流行りのゲームを持ってないのは
貧乏だから買えない」

とは言えないので、
俺はそんなの興味ないって言ってました。

が、当然ですが
本当は買いたくて買いたくて
仕方がなかった。苦笑

けど、その気持ちを見せたら
終わりだと思ってたので、
必死に隠すわけです。

休み時間はもっぱら一人で
本を読むことが多くなりました。

「誰ともつるまない孤高のキャラ」

を精一杯演じました。

すると、

「誰も俺に近寄るなオーラ」
を出していたからか、
そのうちガチで誰からも
声をかけられなくなって、

最終的にほとんど
友達がいなくなりましたよね。苦笑

それでも、僕は
「別に俺は友達なんていらねーし」
と強がっていました。

友達がいると映画を見たり、
遊園地に行ったり、
お金がかかってしょうがないからな。

と自分に言い聞かせていました。

でも、当たり前ですが
本音は超寂しいわけです。

本当は仲間に入りたくてしょうがなかった。

**当時の僕は自分の気持ちに
全然素直じゃなかったなーと思います。**

**貧乏というコンプレックスが、
僕から素直さを奪い去ったのです。**

2：中学時代。貧乏だと本当にろくなことがないと痛感したある事件



僕が貧乏になって実感したのは、
金がない人間に対して
この世の中は非常に厳しいということです。

僕がそれを実感した出来事がいくつかあります。

たとえば、父親が倒れた時。

最初はそれまで付き合いのあった
会社の人や取引先の人が
入院先の病院に訪れていたが、

父親がもう元の職場に
復帰できないとわかってからは、
そうした人は皆消えて行きました。

「金の切れ目が縁の切れ目」と言いますが、
まさにその通りだと、
この時実感しましたよね。

まあ、たとえ貧乏でも
勉強やスポーツで何か1つでも秀でていれば
自尊心を満たせたと思うのですが、

当時の僕は貧乏に加えて
何一つ人に自慢できる
モノや特技がありませんでした。

勉強も下から数えた方が早い成績だし、
運動神経もたいしてあった方じゃないし、
部活もレギュラー圏外。

おまけにモテない（そもそも友達がいらない）。

だから、当時の僕は
自分に自信がありませんでした。

あるのはしょうもない意地とプライドだけ。

この頃から僕は

「あ一金があれば・・・」

「もっと楽しい人生を送れるのに・・・」

と考えるようになりました。

そのうち、僕は「金がない」のを言い訳に
人生が上手くいかないことから
逃げるようになります。

「友達がいらない」

**→うちが貧乏じゃなくて金持ちだったら一緒に遊びに
いけるのに。**

「暇だ」

→金があればゲームとか買ってもらえるのに。

「成績が悪い」

→塾に行けるお金がないからだ。

「彼女ができない」

→彼女とか作ったらおごらないといけないけど、俺そんなに金持ってねーし。だからいらね。

「部活でレギュラーになれない」

→金があればレギュラーのやつと同じスクールに通えるのに。

何から何まで「金がない」を理由に逃げました。

今思えば超クソですね笑。

自分で何一つ努力してないくせに、
上手くいかない原因を

全部外的要因のせいしてました。

でも、当時はこうでもしないと貧乏な上に、
全くイケてない自分を受け入れられなくて、
自我が崩壊しそうだったのです。

そのうち、むしろ開き直って、
年がら年中「金がない」が
口癖のキャラになりました。

それを言ったら
ダメダメな自分でも許されると思ったから。

劣等感しかない現実から逃げるには
そうするしかありませんでした。

じゃないと自分が周りから
「かわいそうなやつ」と思われてしまうから。

それだけは死んでも避けたかった。

ただ、発言が常に後ろ向きで
ネガティブなので、誰も寄って来ません。

「勉強したって意味なくね？」

「部活頑張ってるやつアホじゃね？」

そういう冷めたキャラでいることが、
何一つ上手くいかない自分を守り、
クソみたいな自分の人生を
唯一肯定させる方法でした。

もちろん、努力とも無縁。

努力したって意味ねーし。
だせーよと自分に言い聞かせていました。

ただ、本当は頑張ったって
無駄だと思い込みたかっただけ。

もし頑張って成果が何も出なかったら
より一層惨めになる。

これまた自分のしょうもない
プライドを守るために
言い訳していただけでした。

当時の僕は自分のちっぽけな
プライドを守るのに必死でした。

ですが、そんな斜に構えた
態度が気に入らなかったのか、

僕は当時所属していた
中学のテニス部の連中から
いじめられるようになりました。

あからさまに無視されたり、
物を隠されてそれを遠くから見て笑われたり。

驚いたのが、
当時割と仲が良かった奴から
突然ケータイに電話がかかってきて、一言

「おまえ嫌われてるよ」

と言われて切られたとき。

あれにはさすがに応えたなー。

ただ、凹んでる姿を晒したくなかったので、
部活ではいじめられてることも
全然気にしてないフリをしていました。

ここでも舐められたくない、
というプライドだけで
なんとか生きてました。

そんなある日、
ある事件が起こります。

当時の僕は父親が病気になって以来、
初めて買ってくれたラケットを、
すごく大事にしていたのですが、
それをテニス部の部長をしてた先輩から
隠されたのです。

それまで多少嫌味や陰口を言われても、
見て見ぬふりしてきた僕でしたが、
これはさすがにブチ切れて隠したやつを
散々追いかけて回しました。

完全に冷静さを失った僕は、

力の限りそいつの顔面をぶん殴りました。

我に帰るとそいつの鼻からは
大量の鼻血が出ていた。

なんとその一発で、
そいつの鼻の骨が折れてしまったのです。

殴ったことは全然後悔していませんが、
結局僕は後日母親と二人で
殴った部長の家に謝りに行くことになりました。

本心では全然納得が行きませんでした。

なんで俺が謝らなくちゃいけないんだ？

俺はむしろ被害者だ。

まるでいないも同然のように扱われて無視されて、
拳句の果てに大切なラケットを隠されたんだ。

悪いのは全部こいつだろ？

僕が唯一この件で後悔してるのが、
母親を巻き込んでしまったこと。

息子が勝手に起こした事件に
巻き込まれ謝らされたあげく、
怪我をさせた慰謝料も払わされる。

普通に考えて母親が
一番嫌な思いをしたに違いない。

しかし、殴った理由を正直に話すと、
この時ばかりは母親は
僕を責めることはありませんでした。

それが救いでもありましたが、
そいつとそいつの親の前で
深々と頭を下げてる母親を見ると、
逆に申し訳ないという気持ちで
いっぱいになりました。

なんで関係ないお母さんが

謝らないといけないんだ？

殴ったのは俺なのに。

しかも、元を辿れば殴られても
当然のことをしたこいつが悪いのに。

納得がいかない。理不尽過ぎる。

謝り終わってそいつの家から
自分の家に帰る途中、
少し冷静さを取り戻した頭で、
僕はなぜこんなことになってしまったのか
をずっと考えていました。

よくよく考えてみれば
僕が斜に構えて気に食わない
発言をしたところからこのいじめが始まった。

で、勝手にキレて勝手に殴って・・・

そうなると引き金を引いたのは

やはり自分なのではないか。

いやいや、待て待て。

だからって人のものを隠していいのかよ？え？

別に俺だって好きで
斜に構えてるわけじゃないんだ。

そうでもしないと
自分を惨めだと思ってしまうから。

そう、貧乏な自分を。

「あ・・・」

この時僕は今までと同じ結論に至りました。

結局のところ、
貧乏だからこんな目にあうんだ。

貧乏だとつくづくろくなことがない。

怒りを乗り越えて僕は悲しくなりました。

その件以来、僕に対する周りのイメージは

「キしたらヤバいやつ」になり、
以前のようにあからさまに無視されたり、
悪口を言われたりすることはなくなりました。

ですが、結局、部活は2年の途中で辞めました。

晴れて僕は帰宅部になりました。

「部活なんて無駄に体力消耗するだけだし、
金もかかるし、やる意味ねーよな。

やっぱり辞めてよかったわー」

そう自分に言い聞かせていました。

それから僕は卒業まで
学校が終わったら速攻家に帰って、
ようやく手に入れたゲームボーイを
する日々を送りました。

もちろん中古で買ったやつです。

当時はもう全く流行ってなかった
ゲームだったけど、
今までやりたくても
できなかったやつだったので
むちゃくちゃハマりました。

ゲームだけが辛い気持ちを
紛らわせてくれました。

3：時給800円とかマジ神！バイトに明け暮れた高校時代



中学を卒業するまでに僕の中には
「貧乏＝悪」という価値観が形成されました。

貧乏だと楽しいことが何もできないし、
お金に困ってない奴を見るとイライラするし、
思考もどんどんネガティブになる。

だから、一刻も早くこの
貧乏生活から抜け出したいと思っていました。

そんな僕にとって、
高校生活は実は非常に楽しみでした。

なぜなら、高校生になると、
バイトが解禁されるから。

また、高校になると
中学で自分をいじめてた奴らとは
別の学校になりました。

ここでは今までの自分のことを
知るやつは誰もいない。

「高校生活は今までと違って、
絶対に楽しいものにしてやる！」

僕は密かに今までのろくでもない
人生を変える作戦を考えていました。

いわゆる高校デビューというやつです。

**そのためにはまず
第一に金を稼がなければ。**

僕は求人雑誌を片手に早速バイトを探しました。

高校入学後間もなく、
昼間は部活して、
ちょっと早めに帰って
夜はバイトという生活になりました。

本当は部活はやらずに、
その時間もバイトに当ててるつもりでしたが、
クラスで仲良くなかったやつが
一緒にやろうと言うので渋々入ることに。

入ったのは中学の時と同じテニス部でした。

当時の僕は
「とにかくお金を稼ぎたい」
その思いだけで夢中でバイトをしてました。

結果、貯金はどんどん増えました。

お金を稼げたことで
僕のセルフイメージは上がりました。

そのマインドの変化は私生活にも起きました。

中学時代は全部後ろ向きだったのが、
高校では何かを成し遂げてみたいと
思うようになったのです。

どうせやるなら本気で頑張ってみよう。

というわけで、
バイトと同じくらいテニスを頑張りました。

あれだけ何をやるにも

**「そんなの意味ネーヨ」と斜に構えていたのが、
バイトでお金が稼げただけで、
嘘みたいな変化が起きました。**

今振り返ると、
自分がどれだけ貧乏コンプレックスに
支配されていたかがわかります。

そうして、
高校生活は部活とバイトに熱中しました。

結果、部活では念願だったレギュラーを掴み、

地区大会も優勝することができました。

そうしたら、
クラスのスクールカースト上位のやつが
認めてくれて友達になりました。

たまの休みには
バイトで稼いだお金で
友達と遊んだりもするようになりました。

中学までと違って、
カラオケや遊園地など、
今まで行けなかった場所にも
一緒に行けるように。

この時初めて彼女もできました。

恋愛の仕方がわからず、
見当違いなことばかりしてたので
速攻別れましたけどw

それでも、
やっぱりお金があると

人生は良くなるんだ
ということを実感しましたね。

ただ、人並みの生活が
できるようになったとは言え、
たまにバイトもしてないのに
ブランド物のバッグを持ってる奴を見ると、
相変わらず

「家がお金持ちのやつはいいよなー」

と思う自分がいました。

やはり多少はマシになったは言え、
貧乏に対するコンプレックスは根強く、
なかなか消えなかったのです。

この頃から漠然と将来は普通の人よりも
「お金持ち」になりたいと
思うようになりました。

それもあり、部活を引退した後は、
さらに稼ぎたい欲が強くなり、
バイトに明け暮れました。

今思うと、
今以上に金の亡者だったなと。

当時は金を稼ぐこと以外に
自分の心を満たす術を
知らなかったのだと思います。

高3の三学期になると
学校にもほとんど行かなくなるので、
その間でひたすらバイトしました。

ピーク時は3つほどのバイトを
掛け持ちしていたこともあります。

自分でもよくやったなーと思います。

高校生にして、一番良い時で
月に20万円以上は軽く稼いでいました。

この時の僕は
労働＝お金を稼ぐ方法のすべて
だと思っていました。

「働かざるもの食うべからず」

を忠実に実行していました。

自分の時間をできるだけ
多く労働に当てることが
お金持ちになる方法だと
本気で信じていたわけです。

苦労や我慢をして
時間を費やさなければ
お金を稼ぐことはできない。

ですが、この後、僕は
この考え方を180度変える
衝撃的な体験をしました。

「インターネットビジネス」との出会いです。

ビジネスの原理原則、
お金がどのようにやり取りされるのか、
根本を理解した今は、

「汗水たらして働けば稼げる」

という思考は完全に誤りだと断言できます。

むしろ、この世の中は

「働いていない人ほど金持ち」

なのです。

(日本ではめちゃめちゃ嫌われる価値観ですが。苦笑)

世界のお金持ちの99%は経営者か投資家。

この2つの職業の人は、
同時に世界一働かない人たちでもあります。

長時間労働することで
確かに根性はつきましたが、

ゼロからお金を生み出すための方法、
人々に価値を提供するために何をすればいいか、
1人でもできるリスクが低く
コスパの高いビジネスモデルや、

それを構築するために
必要な知識やスキルは、
何一つ身につきませんでした。

そういう意味では
この後の社会人時代も含めて、
若い頃の貴重な時間を無駄にしたなーと思っています。

高校生のときから労働収入の限界に気づき、
頭脳労働こそが最強だと気づいて、
この時から知識にひたすら投資していたら
今頃うん億という金を稼げていたと思います。

そういう意味では
当時の自分にもし会えるなら、

「そんな労働してないでもっと勉強しろ！」

と言いたいです。

「この世界は
おまえが思ってる以上に広いんだぞ！

だから今のうちに知識をつけておけば、
自分の可能性を超広げることができるぞ！」

と。

4：仕事が全くできない・・・ブラック企業でうつ病寸前に



こうして人並みに充実した
高校生活を送ることができた僕は、
高卒で地元の企業に就職しました。

大学に行きたくなかったわけではないですが、
そんなお金はどこにもなかったのだ。

ですが、
バイトでお金を稼げぐことに味をしめた僕は、

4年間で400万円以上学費で使うのであれば、
さっさと就職して稼いだ方がよくね？
と思い直しました。

社会人になれば
高校生以上にお金を稼げるだろう。

やるならできるだけ多く稼ぎたい。

そこで、僕が就職したのは
年収を上げやすいと言われている
「リフォームの訪問販売」の会社でした。

この時の僕は、
お金を稼ぐ気満々でした。

バイト以上には
余裕で稼げるんだろーなーと
楽しみの方が大きかったです。

しかし、僕の思惑は大きくハズれます。

まず、予想以上に
商品が全然売れなかったのです。

思い返せば、もともと
対人コミュニケーションに難があった僕。

自分の気持ちを素直に出すのが苦手だし、
相手に気持ちよく話させるとかも全然できない。

それどころか、
相手が不快に思うようなことを、
平気で言ってしまうたりする。

いわゆるKY（空気が読めない）キャラ。

だから中学時代はいじめられたりしてたわけで・・・。

その悪い個性が、
就職した会社で如実に足を引っ張って来ました。

はっきり言って
僕は営業が向いていなかったのです。

高校までは接客と言っても飲食店などで、
マニュアル通りにこなしていれば
大丈夫でした。

ほとんど作業ゲーに等しかったので。

しかし、営業の仕事は、
対人コミュニケーション力が超重要であり、
しかも失敗すれば売上は上がらない。

売上に直接的に関わる仕事。

そして、それは売上を出せなければ
自分の給料も上がっていかない
ということを意味していました。

結果を出せば歩合制で
給料は上がっていきませんが、
全然結果を出せない僕にはむしろマイナス。

結果、僕は就職してから3年間以上、
手取り17万円の給料で、
鬼のように働かせられることになりました。

そもそも僕が入ったのは
根っからのブラック企業でした。

早朝は9時始業なのに、
なぜか7時半までに来るのが
当たり前という雰囲気。

正直、意味がわかりませんでした。

おかげで約4年間、
平日は朝6時起きが基本。

さらに、厳しいノルマが課せられ、
達成できなければ
問答無用で上司から詰められました。

僕は特に成績が芳しくなかったので、
終業時間後も居残り（もちろんサービス残業）で
説教されることはしばしば。

深夜12時過ぎまで
延々と上司から説教されることが
日常茶飯事でした。

「おうきよー今週も全然売上上がってないじゃねーか」

「・・・はい」

「このままじゃ今月の目標達成は
難しいんじゃないの？」

「・・・はい。正直・・・」

「じゃあさ？どうすんのよ？」

「・・・い、今から、新規客開拓のために
パンフレットを担当地域に投函しに行きます」

「おう。そうだな」

そうやって、深夜の0時過ぎから、
自転車を必死で漕いで
ポストにチラシを入れて
回ったこともありました。

また、
ノルマが達成できていない人間は
休日ありませんでした。

「ノルマ達成できてないやつが
休んでいいわけないだろ？」

体育会系を通りこして
完全におかしな論理で
僕は休日出勤を余儀なくされました。

「社員が自主的に会社に来て
仕事をする分には一向に構わない」

という名目でしたが、
会社の空氣的にはほぼ強制でした。

こうして長時間労働と売上を
上げなければという
厳しいプレッシャーのおかげで、

僕の脳はどんどん麻痺して
思考力を失っていきました。

「このままじゃマジで死ぬ・・・」

入社して1年ほど経った頃、
僕は精神的にも体力的にも限界を迎え、
ついに会社を無断欠勤しました。

このまま会社に行き続けても
自分に未来はない。

人は完全に希望を失った時に
行動できなくなるのだと知りました。

ケータイには1時間おきに
上司から着信がありましたが、
すべて無視しました。

あーこのままじゃマジでヤバイ。
一体どうすればいいのか・・・。

そんな時に出会ったのが
ネットビジネスでした。

5：絶望の果てに見えた希望の光「脱サラして月収100万円？マジ？」



会社が辛すぎてなんとかこの苦しみから
逃れる手段はないかと
ネットを眺めていた時に偶然目に止まったが、

**「ネットビジネスで
月収100万円稼ぐ人」**

のブログでした。

当然最初は怪しいと思いましたが、
ここに自分の現状を変えるヒントが
隠されてるのではないかと思い
読み始めました。

すると・・・面白い。

僕はどんどんその人の
言うことに引き込まれていきました。

「たった半年で月収100万??すご」
「え、ブログでそんなに稼げるんだ!」
「かかる経費はサーバー代などで
月に5000円くらい?」

マジか。

今は個人の時代。
個人でも大企業並に稼げる
条件が整っているのか。

ネットとオフライン関係なく
使えるビジネスの原理原則・・・

そのブログに書いてあるすべてが
新しい知識のオンパレードで
僕は読む度に興奮しました。

そして、より具体的な
稼ぎ方を教えるということで、
その人のメルマガに登録しました。

そこではアフィリエイトというものが
稼げるというふうに紹介されていました。

確かにこれなら自分でもできるかもしれない。

ここで本業以上に稼げるようになったら
今の会社だって辞められる。

しかも早ければ3ヶ月とかで。

「ヤバイなそれ！超希望あるじゃん！」

それから稼げるようになるまでの
辛抱だと思って再び
会社に行く活力が生まれました。

新しい世界に出会うということは、
これほどまでに人生を
好転させるのかと思いました。

そしてしばらくは
会社に行きながらビジネスの勉強を続ける、
という毎日を送りました。

当時はとにかく無料のメルマガを
登録しまくり情報収集しまくってました。

ドメインの取り方、
サーバーの契約の仕方、
ブログの作り方、
ASPの登録の仕方などなど。

学んだことはどんどん
実践して行きました。

当時はどんどん新しい知識が
入ってくること
で刺激マックスでした。

俺のブログができちゃったよ！

俺ブロガーじゃん！すごくね？

あ、こうするとデザイン変わるんだ。
なんかプログラマーになったみたいだなー。

アクセス来てる？
え、すご、俺が書いた記事が読まれてるよ。
うおーーーー！！！！

全部が初めてのことで、
1つ1つが新鮮で、
何か1つでも進歩があると
すごく嬉しかったのを覚えています。

あと、ビジネスの思考を学んだからか、
それが本業でもいい成果を生んでいました。

それまで上司から感覚でしか習ってなかった
セールスの概念を、
ネットビジネスを通して
体系的に学んだからです。

おかげで営業時のトークも
これまで自信を持って話せるようになり、

それまで月に
2件決められれば御の字だった契約が、
ネットビジネスを学び始めて
2ヶ月目にいきなり5件を決めたりしました。

これは1年半ほどやってきて
入社以来新記録。

この時は僕以上に周りが驚いてましたね。

ネットビジネスを始めると
目標に向かって進歩してる実感から
メンタルも前向きになるし、
本業にもいい影響が出るし、

何より純粋に毎日が楽しくなります。

何かを目指して一生懸命頑張るって
単純に楽しいんですよ。

当時、僕は何をやっても営業成績が上がらず、

「やっぱり自分にこの仕事は向いてない」

と、絶望感しかなかったために
無断欠勤するまで追い込まれましたが、

「こうすれば行けるかも知れない！」

という可能性が見えるだけで、
超絶希望が湧いて頑張れるようになるんです。

当時の僕にとっては
ネットビジネスは希望そのものでした。

かつ、実際に小さいながらも成果が出て、
ますますネットビジネスすげー！！
という気持ちを強くしました。

ちょっとしたことで成果が出ると、
自信がつくし、
もっとできるんじゃないか。

もっと上を目指したい！
という気持ちが強くなります。

そんな時、

当時購読していたメルマガで
久々に有料の商材
（いわゆるネットビジネスの塾）
がオファーされたのです。

プロモーション用の動画では、
毎月200万円以上稼いでいるという
ノウハウの概要や、

それを教わった塾生もまた、
月収100万円以上を稼ぎ出している
といった内容が流れてきました。

それらの動画を1話、2話、3話と見ていくうちに、
僕の心は「この塾に入れば稼げるんじゃないか！」
「自分もこの塾で稼いで自由になりたい！」
という気持ちがどんどん強くなって行きました。

そして、ついに商材の販売が開始。

「難しい知識は一切不要」
「初心者でもできる」
「ブログに記事を投稿するだけで
莫大な報酬を得られる」

「月収300万円稼げる画期的なアフィリエイト手法」

販売ページを見ると、
実に魅力的なコピーの数々。

これやれば絶対結果出せるじゃん！
脱サラどころか、
億万長者も確定じゃん！

僕の心は完全に舞い上がっていました。

さらに、この商材を紹介しているのは、
当時僕が尊敬している
アフィリエイトさんだったので、
この方からの紹介だったら
間違いないと思いました。

そうして僕は、
一番上の120万円のコースに参加しました。

もちろん、不安はありました。

これまでの人生で120万円もする
買い物なんてしたことがなかったし、

そもそも貯金で120万円もなかったので、
足りない分は消費者金融で借金しました。

決済のボタンを押す時は超緊張しました。

しかし、一刻も早く稼いで
脱サラしたかった僕は
覚悟を決めることにしたのです。

それに、
事前に案内された塾の内容なら、
言われた通りに実践していけば、
3ヶ月後には月30万くらいは
稼げるようになるはず。

一時的にお金がなくなるだけで、
さっさと稼げるようになるから大丈夫さ！

そう自分に言い聞かせていました。

6：全く稼げない日々



が、実際は塾に参加してから
3ヶ月、6ヶ月経っても、
僕はほとんど稼ぐことができませんでした。

今月こそ！と思って頑張るのですが、
本業のスキマ時間で
コツコツブログを書き続けていたものの、
収益は全然発生せず・・・。

1年間の通算で3万円稼げてるか
稼げてないかくらいだったと思います。

当時の僕は言われた通りに
やってるつもりが、
なぜ成果が出ないのか
全然理解できませんでした。

塾に入って
6ヶ月目を過ぎたあたりから、
いよいよ僕は焦り始めます。

当時はまだ副業でやっていたので、
11時とかに帰宅してそれから
2時過ぎまで作業する、

という生活を送っていたので、
毎日へ口へ口になりながらやっており、
体力的にも限界を迎えようとしていました。

さらに貯金もほとんどない状況・・・。

120万円で商材を買った当初は
今ではとっくに脱サラしている予定だったので、
精神的にもかなりダメージを受けてました。

そして、当然と言えば当然ですが、無理して副業に打ち込んだことで、本業の方にも少なからず影響が出てきます。

睡眠不足過ぎて、日中強烈な睡魔と戦わなくては行けなくなり、頭が回らない中仕事をするので当然成果は上がりません。

成果が出なければ上司からの容赦ない説教タイムが待っています。

それが深夜まで続いたり、休日にも関わらず自主出勤を強制されたりと、

気づけばますます副業に打ち込める時間は少なくなってるという、

「負のスパイラル」

にはまり込んでいました。

このままじゃヤバイ。なんとかしないと・・・

たまたま、塾の講師に
どうすればいいか質問してみるものの、
返ってくるのは

「作業が足りませんねー」
「もっと死ぬ気で作業してください」

という一言のみ。

毎日仕事以外の時間は
すべて作業に当てているこっちからしたら、

「いやいや、
これ以上どうやって
作業時間を増やせばいいんだよ！！！！」

と、叫びたくてたまりませんでした。

ネットビジネスで
自由な人生を手に入れるはずが、
むしろ、一層激しい労働地獄に陥ったことで、
人生は良くなるどころか、

確実に悪い方向に進んでいました。

当時は本当に
泣き出しそうになるくらい辛かったです。

やっぱり自分みたいなダメ人間が
成功するなんて無理だったのか・・・

僕は絶望しました。

何度ネットビジネスで稼ぐのを
諦めようと思ったかわかりません。

7：年収1億稼ぐ師匠との出会い



ただ、ここで諦めたら本当に
入塾金として払った
120万円が無駄になってしまう。

それだけは嫌だと思い、
僕は自ら現状を変える方法を探し続けました。

そんな時、
僕の目にあるセミナーの
告知が飛び込んできました。

『年収1億円を稼ぐための 自動化セミナー』

なんとも怪しい名前ですが笑、
しかし、当時いくら作業しても
稼げなかった僕にとって、

「自動化」

というキーワードはなぜか
めちゃくちゃ刺さったんですよね。

そこで、セミナーの募集文
を読み進めていったわけですが、
僕の目に飛び込んできたのは、
衝撃的な内容した。

『私は月収1000万円を切る月が一切ありません。

なぜなら、全く労働しなくても、
毎月1000万円以上の利益が

自動で発生し続ける稼げる仕組みを構築したからです

この仕組を手に入れさえすれば、
仕事が忙しいサラリーマンだろうが、
家事が忙しい主婦だろうが
勉強やバイトをしないといけない学生だろうが

皆関係なく稼ぐことができます。

なぜなら、肉体労働ではなく、
「不労所得」で稼ぐので、
どんなに時間がなくても全く問題ないからです。
しかも、これは私だからできたことではなく、
実は正しいやり方を知れば誰でもできます』

僕は最初自分の目を疑いました。

自動で月収1000万円！？

は？俺は半年以上、毎日限界まで
作業したのにも関わらず稼げなかったんだぞ？

にも関わらず、この人は一切働かずに
毎月1000万以上稼いでるって言うのか???

しかも、自動で稼ぐのは誰でもできるって???

正直、超怪しいと思いました。苦笑

そんな美味しい話があるわけないだろうと。

ただ、僕は思ったのです。

もしこれが本当だったら・・・。
そのセミナーの主催者は
ネットビジネスで年収1億円稼いでいるという
若干27歳の男性でした。

詳しく調べてみると、
彼はアフィリエイトなどの
ネットビジネスはもちろん、

他にもエステや飲食店などの実業や
株などの投資の世界にも明るく、

その経歴から、
他のネットビジネスマンとは
明らかに異彩を放っていました。

彼は普段主にネット上のみで発信しており、
セミナーをやることは滅多になく、
今回が公に姿を現す最初で最後の機会だと言います。

**「この人のセミナーに行けば
現状を変えるヒントが掴めるかもしれない・・・」**

僕は直感し、
彼に直接会いたいという一心で
彼のセミナーに申し込みました。

セミナー当日、
実際に彼の話聞いて、
僕は驚きを隠せませんでした。

彼の語るビジネスのノウハウや戦略は
それまで僕が聞いたことがないものばかりで、
すべてが非常に新鮮でした。

何より彼が今までの指導者と

一線を隠していたのが、

「労働は悪だ」

と、長時間作業したり、
労働したりすることを
完全に否定していたことです。

無闇やたらに労働するのではなく、
最も効率的に、最小限の労力で
稼げる方法を学べと言われました。

今までサラリーマン時代も、
120万円の塾でも

「稼ぎたかったら人より多く働け！」

「誰よりも作業しろ！」

と言われてきた自分にとって、
彼の教えは衝撃でした。

しかし、彼自信が、全く労働せずに
月収1000万円を安定して稼いでる
ロジックをすべ聞いた後だと、

彼のその言葉には非常に説得力がありました。

「この人はホンモノだ」

僕は確信しました。

そこで、なんとか彼と2人で
直接話したい僕は、
セミナー後に近所の焼肉屋で
行われた懇親会で
彼の隣に席を陣取りました。

そして、焼き肉には目もくれず、
彼に自分が上手く行っていない
現状を打ち合けると共に、
一体どうすれば稼げるようになるのか、
アドバイスを求めました。

今までずっと引っ込み思案だった僕が、
ここまで露骨に誰かに助けを求めるのは、
生まれて初めてだったかもしれません。

初めて自分の中の悔しいという気持ちや、
情けない感情を、すべてさらけ出しました。

人は圧倒的な存在の前では
素直にならざるを得ないのだと実感しました。

今思うと、皆が講師と話したい中、
自分だけが講師を独占するのは
迷惑な話です。

しかし、
ブラック企業で毎日厳しい生活を
余儀なくされ心身の限界に達し、
なんとしてもネットビジネスで
成功したかった当時の僕には、
周りを気にしている余裕はありませんでした。

すると、ありがたいことに、
師匠の方も僕のそうした我先にの態度を
ポジティブに解釈してくれたのか、
嫌な顔一つせず、
僕の話を親身になって聞いてくれました。

むしろ

「もっと詳しい状況を教えてほしい」

と言うので、僕は全部素直に打ち明けました。

僕が話している間、
師匠は一言も口を挟まず、
最後まで僕が言うことを聞いてくれました。

そして、一通り話を聞き終わると、
僕が稼げない現状を変えるためには
どうしたらいいか、
具体的なアクションプランを
話してくれました。

「まず、おうきさんがすべきことは・・・」

※おうきは1年もの間なぜ稼げなかったのか？
稼ぐためには本当は何をしなければならなかったのか？

詳しくはもう1冊の電子書籍で解説しています。

→ [『脱社畜のススメ～真の自由なライフスタイルを達成するために知っておくべき3つの真実～』](#)

今度は僕が彼の言うことを夢中になって聞きました。

メモを片手に一言も聞き漏らすまいと
メモを取りました。

彼の話は論理的で、かつ、すべて実体験に基づくもので、納得できることばかりでした。

彼は一瞬で僕が取り組んでるビジネスモデルの欠点を見抜き、どうすれば僕が最短で結果を出せるのか。

具体的なロードマップをものの数分で作成してしまったのです。

やっぱりこの人はすごい・・・。

こうして今みたいに
彼からずっと近い距離で
教えてもらうことができれば、

100%結果が出るに違いない。

逆に、この後また家に帰っても、

一人になればまた間違った
思考の癖が出てしまって
上手く行かなくなる可能性が高い・・・。

「もう自分には後がないんだ。

ここまで来たら1%でも成功確率を上げるための
行動をとことんやろう」

僕はその日の内に、意を決して師匠に
長期のコンサルティングをお願いしました。

そこから僕と師匠の
二人三脚の日々が始まりました。

8：ついに月収100万円達成し脱社畜へ



が、最初は

「本当に稼げるようになるのか？」

「もし師匠から教わっても稼げなかったら・・・」

正直不安も大きかったです。

この期に及んで僕は相変わらず
小心者でビビリだったのです。苦笑

が、そんな僕の不安は杞憂に終わりました。

**師匠の言葉に忠実に一生懸命取り組んだところ、
なんと1ヶ月もしないうちに
20万円の報酬が発生してしまったのです。**

今まであれほど作業しても
全く稼げなかったのが、

メンターから効率よく最短で
収益を発生させる戦略を教わった結果、

今までの10分の1以下の労力で
稼げてしまった・・・。

僕はあっけに取られました。

そして、稼ぐために大事ななのは
汗水たらして労働（作業）することではなく、

「いかに効率よく

継続的に収益を発生させる仕組みを作るか」

だと、ようやく理解したのです。

以前はあれだけ行動したにも関わらず、
全くと言っていいほど稼げなかったのが、
今回は面白いくらいに成果が出るので、
僕は楽しくて仕方がなくなりました。

結果、雪だるま式に報酬は増えて行き、

1ヶ月目20万円

2ヶ月目30万円

3ヶ月目50万円・・・

半年後には月収100万円を突破しました。

しかも、その間

「自動収益システム」は着々と出来上がり、
労力は増えるどころか、
むしろどんどん減って行ったのです。

こうして僕は1年もの間

全く稼げなかったものの、
メンターに出会い
最強に効率の良い稼ぎ方を教わった結果、
半年後には無事脱サラすることができました。

師匠のおかげで、
僕はようやくブラック企業の奴隷から
開放されたのです。

辞表を提出した日。
僕の心はめちゃくちゃ晴れやかでした。

「これでもう明日から6時に起きて
満員電車でゆられることもなければ、
ノルマに追われることもなく、
上司から怒鳴られることもないんだ！」

それから1週間くらいはひたすら寝てました。

時間を気にせず寝れるのが
こんなにも幸せなことなんだと感じたのは、
きっと後にも先にもないと思います。笑

そして、脱サラ後、
さらに僕の収益は伸び、
3ヶ月後には自分の会社を設立。

手取り17万だった僕が、
株式会社の社長になりました。

それまで家族には
僕が会社以外で副業していることを
詳しくは伝えていなかったのに、
僕が会社を辞めてしかも社長になったと言うと、
超驚いていました。

ただ、ちゃんと稼げてることを聞くと、
本当に喜んでくれましたね。

正直な話、僕は21歳で
ネットビジネスに出会い、稼ぐまで、

「なんで自分はこんな家に生まれてしまったんだ。
おかげで友達と仲良くなれず、
欲しいものは買ってもらえず、
おまけにいじめられた。

全部貧乏のせいだ。
俺は世界で一番運の悪いやつだ」

と思っていました。苦笑

しかし、今はもうこんな考えは持っていません。

確かに子供の時に貧乏生活を
送らなければならなかったのは
「運が悪かった」のかもしれません。

ですが、運が悪いことを
恨んでも仕方がないんですよ。

世の中には、
当然のように格差があります。

それが当たり前なのです。

他の経営者や上場企業の役員、
もしくはモデルや芸能人など
「ザ・エリート」に会う機会が増えた今、
余計にそう感じます。

中には、家がもともと超お金持ちで、
何不自由なく欲しいものを手に入れて、
そのまま親の会社を継いだ人もいれば、

両親が美男美女で生まれた時から
美しさが保障され、
おまけに英才教育まで受けられた人もいます。

そこまで行かなくても、
当たり前のように家族で仲良く笑いながら
毎日美味しいものを食べている人がいる一方、

中には両親が離婚して
親はいつも夜仕事に出ているため、
一人で寂しくコンビニ弁当を
食べなければならない人もいます。

つまり、この世界に
格差がないわけがないのです。

僕は父親が倒れたおかげで子供の頃
貧乏生活を余儀なくされたわけですが、
それでなくても、
少なからず生まれた瞬間からすでに

「運」には差があるということです。

ですが、そんな「運の善し悪し」を恨んでも仕方がないです。

運の差は、
誰もが認めなければならないのです。

その上で、

**「自分の運を良くするためには、
何をすればいいか？」**

を考えなければいけません。

運が悪いだけで自分の人生を終わらせるのは、
あまりにもったいないと思うんです。

僕自身、人の人生を妬んで、
嫉妬を心の奥底に感じるまま
生きていた時もありました。

10年以上恨んでいたんです。

しかし、それに何の意味が有るのでしょうか？

運が悪いなら、
素直に運を良くするためには
どうすれば良いか考えて努力するしかない。

何かしら学び行動を起こさなければ
本当に運が悪いままで
その人の人生は終わってしまいます。

それが一番悔しいことだし、
一番悲しいことだと僕は思います。

僕は今では母に感謝しています。

正直欲しいものを一切買ってもらえず、
友達と遊びに行くことを許されなかった時は
なんでだよ・・・と思いました。

でも、だからこそ、
僕のお金に対する執念は
並々ならぬものになったし、

様々な代償は払ったとは言え、
お金に対して
真剣に向き合うことができました。

また、僕が中学で
テニス部の部長を殴った時、
本来なら怒ると思うのですが、
母親は僕に何も言いませんでした。

どんな形であれ、
母親は母親なりのやり方で
僕を守ろうとしてくれたのだと思います。

その結果、今の僕があります。

もし幸せいっぱい家庭で育っていたら、
今みたいにハングリーに上を目指すという
価値観を持つことはできなかったでしょう。

上を目指すというのは、
自分の現状を否定して、
さらなる鍛錬を積むということ。

自分を否定するためには、勇気が必要だし、

何より「素直さ」がないと絶対にできません。

素直に生きるというのは
言葉で言う以上にとても難しいことです。

それは自分の弱さを認めることだし、
昔の僕みたいに何かしら言い訳して
生きている方が楽ですから。

**けど、そんな言い訳だらけの
人生に終止符を打つことこそが、
本当に自分が生きたい人生を生きる
唯一の方法なのです。**

幸い、僕は言い訳だらけの人生を
止めることができました。

会社にも世の中の常識にも縛られず、
自分の意志のままに、
素直に生きる術を学ぶことができた。

まだまだ至らないこともあります。

ですが、20代にして、

この考え方になれたのは、
「幸運」に他なりません。

言い訳ばかりでちっとも
行動しない自分のまま素直になれずに、

「こんなブラック企業だけど、
働ける場所があるだけで幸せだ」

「お金なんてなくてもいい」

と自分に嘘を付き続けていたら、
ろくな人生は歩めなかったと思います。

素直に自由になりたい！
もっとお金が欲しい！と認めて、
そのために何が必要か考えて行動すれば、
必ず手に入れることができるのです。

もちろん、お金が欲しいからといって、
人を騙したり、
犯罪に手を染めたりするのは
最低な行為です。

ですが、お金を得るために
自分のスキルを上げるのは、
非常に生産的なことです。

学歴を得るのも、
スキルを得るのも、
アルバイトをするのも、
就職するのも、

全てはお金のためです。

もちろんお金が全てとは言いませんが、
「明日から給料半分ね」
と言われて、抗議しない人間がいるのでしょうか？

いるはずがないでしょう。

本当はお金が目的なのですから。

素直でいいじゃないですか。

お金が欲しい。
認められたい。

結果が欲しい。

女が欲しい。

全部素直になればいいと思うんです。

で、欲しいものを手に入れるために
全力で努力すればいいんです。

少なくとも、

僕のように本当は欲しいのに、
あたかも興味ないフリをして逃げるのは
絶対にやめたほうがいい。

そんなことをしていても、
絶対に人生は良くなるから。

正しいルートで努力を進めるために、
ガンガン自己投資すればいいんですよ。

お金も時間も投資しましょう。

そっちの方がよっぽど健全です。

自分にも他人にも嘘をつき、

顔色を伺うだけでは、
本当の意味で良い人生は訪れない。

お金を得ると本当にいいです。

時間もお金で買えるし、
知識もお金で買える。

知識さえあれば、
間違った選択をして遠回りせずに
最短最速で自分が手にしたい
思い通りの結果を手に入れることができます。

出会いだって、
お金があればある程度は買うことができます。

お金があると、
時間も増えるから、
たくさんの人と会う時間も作れるし、
そのためにかかるお金も捻出することができるので。

よって、仕事の出会いだけではなくて、
恋愛などプライベートな出会いも充実するでしょう。

改めて、
素直な自分になれたことを運が良いと捉えて、
母に感謝したいと思う。

そして、ここまで読んでくれた
読者のみなさんにも感謝したいと思います。

こんな長い文章を読んでくれて本当に嬉しいです。

僕の正直な思いを
今回の書籍には書き連ねました。

正直向き合いたくない感情もありました。

ですが、それを含めてこの本を書いたことは、
幼少期に貧乏に陥ったことに端を発する
欲しいものを欲しいと言えない悲しさ、

悔しくて悔しくて仕方がない気持ちや、

その他にも認めたくない様々な感情と
素直に向き合うことができる
良い機会になりました。

この本を読んだ人が、
昔の僕のような何もかも上手くいかず、
自信を失いがんじがらめになってる世界から
抜け出すことができて、

素直になり、
自分の感情に嘘をつかないで
生きられるようになることを心から願っています。

終わりに

ここまで、僕の生い立ちや
会社員時代にビジネスを始めて
独立するまでに思ったことや
感じてきたこと全てを語ってきました。

僕は、ちょっと前まで
貧乏生活を余儀なくされ、
それにより性格がひん曲がり、
貴重な青春生活を棒に振り、
ブラック企業に就職し、

先が見えない真っ暗な
トンネルのような地獄で絶望していました。

こちらの書籍では
極力明るく語ろうと努めましたが、
実際の僕は精神的にギリギリで、
うつ病寸前にまで追いやられていました。

僕がその地獄から帰還できたのは、
師匠に出会い、
ネットビジネスに出会ったからです。

僕は師匠に出会って
世界が変わりました。

僕にとって、
師匠とネットビジネスは命の恩人です。

もし、今の生活を変えたい
という思いが少しでもあるのであれば、
僕はあなたの力になります。

改めて、ここまで読んでくださり

ありがとうございました。

感想はメール講座への返信等でいつでもお待ちしております。

おうき

P.S.

僕のブログや、Youtubeチャンネル、メルマガでも同じような思いで色々な情報を発信しているので気になる方はぜひ勉強してみてください。

・メール講座の購読はコチラ

※すでに登録している方は再登録する必要はありません

・ブログやってます！

・Youtubeチャンネルはコチラ

P.S.2.

真の自由なライフスタイルを
手に入れるための具体的な方法論や考え方は、
もう一冊のメール講座登録特典、

『脱社畜のススメ～真の自由なライフスタイルを達成
するために知っておくべき3つの真実～』

に書きましたので、ぜひ読んでみてください。